「元気が一番」塾　　2009.10.17　仲島 正教

「同じ教材文」を２つの指導案から考える　　教師の解釈で授業は大きく変わる。

２年道徳「お山の汽車ぽっぽ」の指導案を読み比べる
例１　〇〇市　〇〇先生の指導案
例２　△△市　△△先生の指導案

１．まずは、教材文を自分で読んでみる
・どんな話なのかを理解したあと、どの場面で子どもの心が揺れるのか、ヤマになる場面での発問はどうすればいいか、を自分なりに考える

２．例１の指導案と、例２の指導案の「授業展開」部分を見る。そして２つを比べる
・どんな展開で、どんな発問がされているか。
・心はどう揺れるか、「授業の心電図」で考えてみる。

※授業の健康診断　～授業の流れを心電図で例えると～
・正常脈・・・小さな山が規則よく・・・・・・・・・一問一答型　△
・不整脈・・・山が大きくなったり小さくなったり・・心が揺さぶられる　◎
・死亡脈・・・まったく平坦・・・・・・・・・・・・・おもしろくない　×
☆うそ発見器は、もっとおもしろいぞ、だって大きく揺れるから
→ 授業の成否は、子どもの心をどれくらい揺らすことができるかにかかっている

※子どもの心が揺れるのはこんな時
・自分の考えや行動と違う時　・友だちと意見が食い違う時　・先生と違う時
・思ってもみなかったこと（驚き、意外）　・本音と建前がぶつかる時
「えっなんで？」「それ違うよ！」「そうやそうや！」「おもしろい！」「やってみたい！」

３．例１の指導案と、例２の指導案の「趣旨」部分を見る。そして２つを比べる
・それぞれの教師の意図は何か。この授業で何をしたいのか読み取ってみる。
・２人の教師の教材解釈の違いを読み取ってみる。

※指導案の趣旨は
こんな子どもだから⇒こんな教材を使って⇒こんな指導をしたい
（児童観）　（教材観）　（指導観）
→ 趣旨が一本の筋として通っているか。通っていなければ授業はブレる

４．もし、自分のクラスだったら、こんな授業にしてみたい
・自分の学級のあの子この子の顔を思い浮かべながら、自分なりの指導案を考える
→人の指導案や指導書等の指導案を真似ているだけでは、授業力は伸びない。
→自分だったら、こうするのに・・・そんな批判的な目で見ることも大切な勉強

◎次回の元気塾（11/21）は、古川正人先生（元気塾ＯＢ）の「古川セミナー」です。
古川先生の「ちょっとしたワザワザ」の実践が子どもを変えます、クラスを変えます。